



○クリニック東側外観。建物の左側に突き出しているのは2階ラウンジの一部 撮影：鈴木研一

今月のトーク/monthly talk

突起物

このたび竣工した○クリニックは、ガラススタイルの外壁が美しい建物です。外観はほぼ四角形ですが、ところどころ非常口や階段、部屋の一部が飛び出した形をしています。

設計を行った石田敏明氏は、「単純な形は重く、動きがなく、周りに対しても圧迫感を感じさせるもの」と説明してくれました。突起物があることで、建物の表情は豊かになり、周りとの関係性が高まるということです。それは地形でいえば、リアス式海岸のようにひだがあることで、凹凸のそれぞれの関係性を生み出すもののだそうです。

例えば、西側に飛び出している2階の非常口テラスはどこかユーモラスで、もしこれがただの平面の窓だけであったら、病院が持つ閉鎖性とでもいうようなもの、ある意味で外部との関わりを拒否しているかのような冷たいものを感じるのかもしれませんが。しかしその開放性に、外から見るものは好意的な感情を持つことになるでしょう。

またクリニックの建て主○様は、計画当初の模型で、建物の角が普通ののがった四角いコーナーであったのを見て、「Rにして柔らかい感じにしてほしい」と変更を希望されました。周囲は住宅街であり威圧感のない建物を作りたいというお考えからです。病院が本来誰でも訪れることのできる、受容性のある役割を果たすものだという気持ちが建物の形に表されているのです。

一方、建物から少しはみ出した形のエントランスは、そこに立った患者さんの視界がぱっと開け、ガラスの扉を通して、四方を十分に見る

ことができるものです。安心と開放感を味わうことができるかもしれませんが。突起物は動いていく人の視点により、その意味もまた変わっていきます。

「建築とはまず単純に内側を囲うことからスタートしているが、このような突起物をつけたり、表情を考えたりしながら、どんな建物を設計するときでも、内から見た外はどうか、外から見た内はどうかを常に考えている。」という石田氏の話から、その境のありようこそが建築であり、文化なのだとなつきました。

「人と人」、「人と社会」の関わりもまたそういうものなのでしょう。突起物、すなわち外への働きかけがなければ周りからの反響はなく、こちらから影響を及ぼすこともできません。「出る杭は打たれる」という言葉がありますが、出ないでいれば何も変わらず、周りから影響を受けることもなくなっていくような気がします。逆に突起物を眺め、その価値を考え、効果をきちんと理解する一受け手としても良好な感性を備えて、反応する必要があります。

国と国との関係もまた、ある種の「突起物」を介して進んでいると見ることができます。

新しい突起物により、単純な形では得られなかった良好な関係を生み出し、さらに豊かな未来を作っていくと期待して、双方向のコミュニケーションが可能な環境をつくりたいものです。

○クリニック

周囲に威圧感を与えないクリニック

建て主のO氏は、地域医療を担ってきた医院の3代目である。事務所が近い関係で私が患者としてお世話になったのがご縁で、老朽化した建物の建替えをお引き受けすることになった。

建替え以前の建物はRC造の2階建てであったが、自由度がないプランに不満を持たれていた建て主は、フレキシビリティのある空間を希望された。また、「住宅地内にあることから、周囲に対し圧迫感のない建物になるように」というご希望があり、加えて大事にしておられる植栽をできるだけ切らずに生かすことを求められた。そのため、伐採した桐については製材を行い、ゆくゆくは家具など内部に使用できるようにしたり、藤棚も場所を変えて植え替える予定で移植して近くの植木職に預けてある。ほかに、建て主は先代・先々代が使っていた計量器や体重計、ドアノブなど、古くても愛着のあるものなどをとても大事にされており、それらのコレクションも保管しておけるスペースも用意することになった。

RC造打ち放しだが少し柔らかい表情にするため、外壁に本来床材として使用するデッキプレートを用い、500ミリ単位のモジュールで周囲を囲うことにした。構造的には外力をコンクリートで受けて、軸力をそのデッキプレートで受けている。工事中必要なところはサポートを設けたが、施工的には精度が求められ、設定に余分な工期も取られることになって、現場にはこちらのストーリーによく対応していただいたと思う。

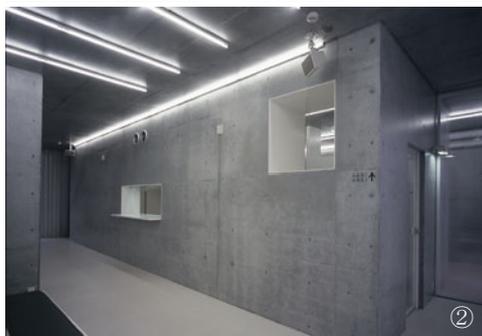
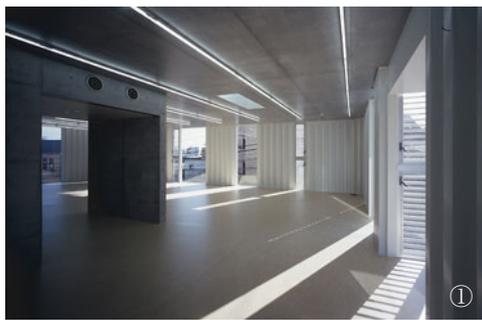
内壁は打ち放しだが、ランデックスコートを2度塗りして、少し柔らかい表情を出した。さらに開口部にも柔らかい表情を出したかったので、フラットなブラインドより、陰影が出るカーテンを用いた。こちらの提案をもとに「株式会社NUNO」の安東陽子さんにオリジナルデザインを依頼した。光による微妙な変化が期待できる素材となっている。

床材は、当初テラゾーにしたかったが、設備、その他の理由により浮き床にする必要があり、エクセルジョイントを塗った後、ドイツのアーデックスビショットを流し込んでいる。

以前手がけたRC造の住宅で利用したガラススタイルの表情が、タイルとは思えない不思議な表情を持つことを発見し、今回はさらに透明な50ミリ角のものを利用してみたところ、デッキプレートの500ミリというユニットにもあい、角のRもきれいに収まった。タイル割りの施工をしっかりとやっていただいたので、より建物として厳密で洗練された印象になった。

ガラスは経年変化がほとんどない素材で100年経っても変わらない。季節、1日の時間、天候によってその表情を変え、また周囲の緑も映しこんで、スクリーンのような外壁を作りたいというこちらのイメージに応じてくれるものだ。メンテナンスも楽で、診療所という清潔感が求められる建物にはマッチしている。

フレキシブルなプランということが一番表れているのは2階である。エレベーターをコアとして、周りが全部フリーで、ほとんど仕切りのないスペースを提案した。1階も同様だが、働くスタッフの動線を意識して、回遊性のある空間になっている。(石田敏明氏談)



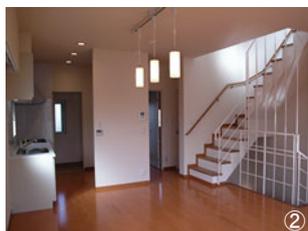
①将来の増科を視野に入れた2階フリースペース。②1階待合室からみた診療室側。回遊性のあるプランになっている。③3階デッキフロア。院長執務室。コレクションを収めるスペースとしても利用できる。④1階待合室廊下。⑤M2階。階段室。

所在地：板橋区 用途：診療所
構造：RC造+S造 規模：地下1階 地上3階
設計：石田敏明/石田敏明建築設計事務所
構造設計：アラン・バーデン
/ストラクチャード・エンヴァイロメント
竣工：2006年12月
撮影：鈴木研一

ガーデンア永福（永福町テラス）

前面の広場がゆとりの長屋形式の分譲アパートメント

一方通行の水道道路に面した旗竿地に、長屋形式の3戸の分譲アパートメントが完成した。各戸とも独立した入口を持ち、それぞれに屋上も付いている。1階に3つの個室、2階にLDKとバスルームを擁し、建物北側は小さい裏庭になっている。使いやすいプラン、オープンな階段室が採光・通風に一役買っている。建物のゲートは白い鉄骨、その中にステンレス製のマンション名のネームプレートが貼り付けられ、明るい印象をかもし出す。建物前の共有広場が小さい子供のいる世帯には安心のスペースとなるだろう。



①外観。長屋形式の3棟の正面に駐車スペースを設けている②2階LDK。正面左側にキッチン、右側奥にバスルーム。階段を上ると屋上。③屋上。大宮神社の緑が見える。周辺に高い建物がなく、日当たりの良いスペースになっている。

所在地：杉並区
用途：共同住宅
構造：RC造
規模：地上2階
設計：小野建設一級建築士事務所
竣工：2006年12月



石田敏明 profile

1950年 広島県生まれ
 1973年 広島工業大学工学部建築学科卒業
 1973-81年 伊東豊雄建築設計事務所
 1982年 石田敏明建築設計事務所設立
 現在、前橋工科大学大学院教授

主な受賞

1991年 SD Review 鹿島賞受賞「Aプロジェクト」
 1992年 住宅建築賞 金賞受賞「綱島の家」
 1996年 JIA 新人賞受賞「NOSハウス」
 第12回吉岡賞受賞「F4」
 第22回東京建築賞 優秀賞受賞「SUZハウス」
 1997年 日本建築士会連合会賞優秀賞(有明フェリー長洲港ターミナル)
 1999年 日本商環境デザイン(JCD)賞'99大賞受賞「小鮎ネーム刺繍店」
 日本商環境デザイン(JCD)賞'99奨励賞受賞「F5」

— 今月はOクリニックを設計された石田敏明氏にお話を伺います。長年いろいろな仕事をされているのですが、まず建築家を目指されたきっかけからお聞かせいただけますか。

石田: 昔は巡回映画というものを小中学校で時々上映する機会がありましたね、中学2年か3年のときでしたか、うちの中学校に『超高層のあけぼの』という映画がやってきたのです。霞ヶ関ビルの建設工事にまつわるいろんなストーリーが込められているものでしたけどね。

— ありましたね。なつかしいですね。

※『超高層のあけぼの』

1969年日本技術映画社(現カジマビジョン)製作、監督: 関川秀雄

石田: 出演者も建築技術者から職人までいて、建設の過程がドラマティックに表現された映画でしたが、最後に伴淳三郎演ずる出稼ぎの土工が、完成した建物を前に「すごいだろ、これは俺が作ったんだぞ」という台詞を吐くんですね。それを見て僕も「建築はいろんな人が関わっている。物をつくるって面白いな」と。まあ、クラスに戻ってアンケートをとったら、ほとんどの男子がみな建築家になりたいという答を書いていたけどね(笑)。

— そういうきっかけもあり、絵も得意だったので、大学は他の理系の学科も受けましたが、最終的には建築学科に進みました。

— 卒業後は、伊東豊雄さんの事務所にお入りになるのですか。

石田: 私は広島の出身なのですが、当時地方は極端に情報が少なくて、東京にある種の憧れがありましたね。まず東京へ出ようと、学部4年の春になって上京して、半年くらい知り合いのところ居候しました。テレビでしか知ることのできなかった東京の魅力、特に人の多さ、都市の大きさに驚きました。それから伊東さんの事務所に世話になることになり、8年間いて、その後独立しました。

— 独立当初、何年かは妹島和世さんと事務所をシェアしていましたが、97年に今の事務所の場所にあった妻の実家にアパートを建替えることになって、それからはこちらですね。(事務所と賃貸住宅も併せ持った鉄骨造の併用住宅は、「T2Bldg」として、竣工当時雑誌などで紹介されている。)

— 独立後は、どのようなお仕事が多いですか。

石田: 基本的には来た仕事にきちんと取り組むだけですが、比較的住宅が多いですね。どんな建物もできるだけ開放的な空間にしようと心がけて

います。プランに回遊性がある点は共通しています。ランドスケープも手がけていますが、公共のものは95年熊本のアートポリスや千葉の印西消防署などです。

— 店舗などはいかがですか。

石田: いろいろありますが、99年に巢鴨の国道17号線沿いの小さな刺繍店の設計を行いました。以前の建物は木造で引戸、昔のかけはぎやさんというイメージそのままの建物でしたが、道路の拡幅工事の末に残った奥行きが2m、面積は約6坪の本当に小さい敷地で建替えることになって、地下1階、地上4階の鉄骨造の建物をつくりました。それが、日本商環境デザイン賞の大賞をいただきました。ほとんどがインテリアデザイナーの出品の中での受賞でした。「小鮎ネーム刺繍店」というのですが、ローマ字の店の名前をカットティングシートでグラフィカルな感じにして貼り付けたら、若い人からの注文も入るようになったと、お店の人には喜ばれています。

— 写真を拝見すると、おしゃれなカフェの感じですね。

石田: お店の人にどんな建築家に頼んだのか紹介してほしいと、入ってこられる方もいてね。それで本当に小さな物件の話を持ち込まれることもあります。その後間口が13m、奥行きが2mという住宅(SAK)の話が来ました。

— 事務所のスタッフの方は何人いらっしゃるのですか。

石田: 今スタッフは3人です。97年から前橋工科大学で教鞭をとっており、今年で9年目です。最近はどここの大学も少子化の影響を受けて学生数が少なくなっていますから、いろいろ大変です。2005年には、大学の研究室で大学のクラブ棟の設計を行いました。

— 今、地方は駅前の商業地の衰退など深刻な問題を抱えていますね。

石田: ええ、前橋も昔は生糸の集積地で繊維産業が町を支えた歴史があり、この間まで「ダイハツ車体」があったのですが、移転して大きな地元産業がなくなりました。行政も活性化を唱ってはいますが、なかなかうまくいかないようです。現在ダイハツ跡地には大型量販店が建設中ですが、これが出来ると、中心市街地は完全にシャッター通りになって、老舗の百貨店や小売店は相当ダメージを受けると言われています。群馬は1人当たりの車所有率0.8台と高車社会ですから、台数は多く駐車場代も安い。中心市街地は建物がなくなって、その跡地は駐車場になって、風景として風化されていきます。街並みという視点からはよくないですね。

— 今日はどうもありがとうございます。



①有明フェリー長洲港ターミナル(1996)



②小鮎ビル(1999)



③印西消防署牧ノ原分署(2001)



④タルト(2007)

※撮影: ①②③は石田敏明建築設計事務所

④上田宏



十二月二十二日(金)
 天気は小雨から曇りに。年末の足場解体を目標に、内装工事は進行中。足の踏み場もないくらいだ。業者もいらいらしているが、頭を下げながら、段取りに沿ってやつてもらおう。同時に屋根の金属工事、外部のタイル目地を埋める

入社して、約一年半。辰で現場を担当するのは今回が初めてである。(仮称)永福町テラスは、三棟からなる長屋形式のテラスハウス。地上二階、各戸とも独立したエントランスを持つので、戸建て住宅を同時に三件つくっているようなものだ。昨年八月の盆休み明けから工事に取り掛かる予定だったが、躯体業者の手配がなかなか付かず、結局二週間遅れのスタートとなった。
 工事が始まってからも、二階部分の階高が一階より高くなるため、型枠加工に思った以上に時間を取られた。躯体のコンクリートが完成したのが十一月。引渡しは十二月末なので、約一カ月で内装工事をやり終えなければならぬという、厳しい工期となった。

十二月二十三日(土・祝)
 晴れ。屋根の金属工事を引き続き行う。外部の吹きつけ、タイル工事も行う。

十二月二十四日(日)
 晴れ。休日は近隣との取り決めにより、音の出ない作業だけに限られている。屋上防水の下地作業と外壁吹きつけタイルのトップ。(色付け作業)



塩 康夫
 短い工期を手戻りのない
 工程管理で乗り切る

十二月二十八日(木)
 晴れ。屋上防水工事を終わらせる。材料・荷物をすべて下ろして、足場解体。何とか間に合い、ほっとした。

こんなに短い工期は初めてだった。知り合いの業者に、自分にとつてこの会社で担当する初めての仕事だから、力になってくれと頼んだ。三件の各工事で手の空く業者が出ないように調整した。
 特に屋上工事は、すでに仕上がった内部しか、業者の通り道がないので、養生には神経を使った。設計の先生には、変更は極力しないでほしいと何度か頼んだ。手戻りが多いと結局時間だけでなく、その場所が不具合の要因になってくるのだ。

また、施工者側から見ても、どうしても納得できない納まりについても、提案させてもらった。工期に余裕があれば、何でも対応できるし、仕上げもうまくいく。今後、この会社でいい仕事ができるばと思っている。

十二月二十五日(月)
 晴れ。屋上アスファルト防水工事、屋根の金属工事の仕上げ。内装工事も終盤だ。
 十二月二十六日(火)
 雨。とうとう降られてしまった。きつい。外壁タイルの洗いのみ行う。
 十二月二十七日(水)
 晴れ。屋上アスファルト防水工事。外壁上部の化粧アルミ工事を行う。

1945年生まれ 鳥取県出身
 鳥取工業高校卒業

18-21歳 大成建設入社
 22-35歳 ニチモプレハブ
 35-53歳 保証美建 同社倒産退職
 53-60歳 ゼネコン数社勤務
 61歳 株式会社辰入社

担当した主な物件 (設計者)
 永福町テラス
 (小野建設一級建築士事務所)

TOPICS/INFORMATION

「鎌倉御成町新築工事」 上棟式 2月22日

耳鼻咽喉科医院と建て主2世代の併用住宅です。鎌倉駅から徒歩3分、江ノ電のすぐ近くで、既存の建物も含め、周辺には趣のある洋館がいくつか建っています。

構造:RC造 地上2階
 用途:診療所併用住宅
 設計:綱川建築事務所
 完成予定:2007年3月



「(仮称)天陽堂第Ⅱ計画 新築工事」 地鎮祭 3月8日

建て主は武蔵小山の天陽堂洋服店様。
 2006年施工した『アディレック武蔵小山』に続く2棟目です。

構造:RC造 地上5階
 用途:店舗・共同住宅
 設計:㈱ユニホー東京支店
 一級建築士事務所
 完成予定:2007年11月



編集後記

・旧正月を終えたばかりの香港に行ってきました。ご存知のとおり、香港島は、高層住宅が多く、40-80階の高さのものもざらにあります。その形はただの真四角ではなく、採光と通風に配慮して、まるでオモチャのブロックのように、でこぼこ突起した各戸のユニットが、そのまま積み上げられ、空に向かって丈を伸ばしています。が、たとえ高層でも工事現場の足場は20数年前に訪れたときと変わらず、竹でした。

・香港国際空港(1998年開港)は、全体を一望できるダイナミックな内部空間がすばらしく、地下鉄など他の交通機関のアクセスも快適で、利用者本位の計画を実感しました。それにひきかえ、成田空港の出迎口のわかりにくく、狭いこと、がっかりしました。



香港島 西灣河からみた集合住宅